



ごあいさつ

会長 安川 悦子

昨年、一番々瀬康子さんからJAICOWSの会長を引きついで（無理やり引き受けさせられてしまった方が正しいのですが）もう1年たってしまいました。日本学術会議の会員210名中、目下女性会員は2名しかいない。これではジェンダー・ニュートラルをめざす世界の科学研究の水準に及ばないどころか、日本の科学研究の現状をも反映していない。せめて1割は女性会員であってほしい。

この数年来、急激に進められている日本経済の構造改革を通して「ジェンダー・フリー」「エイジ・フリー」の社会を実現することが目指されています。科学研究もこうした時代の流れに無縁ではないはずで。

女性「科学研究者」が、良い仕事を継続的に行えるように環境を改善するだけでなく、「科学研究」のシステムも、「科学研究」のパラダイムもジェンダー・ニュートラルにしていく。そのためにはどうしたらよいか。JAICOWSの課題は大きいと思います。

女性科学者と日本学術会議

日本女性科学者の会理事
日本学術会議第6部微生物学研究連絡委員会幹事
鈴木 益子

はじめに日本学術会議の概略を説明し、次に本題「女性科学者との関わり合い」について述べる。

1. 学術会議の目的と組織

学術会議は昭24年、わが国科学者の公的代表機関として内閣所轄の特別機関として設立された。日本学術会議の活動の目的は、科学の向上発達を図り、行政（政府、各省庁、各研究機関等）、産業および国民生活に科学を反映浸透させることにある。その組織は、会長1名、副会長2名の下、委員会〔常置委員会、特別委員会、並びに研究連絡委員会（人文・社会科学部門（第1部～第3部）と自然科学部門（第4部～第7部））〕から成り、メンバーは、登録された学術研究団体の会員約70万人の中から選出された代表者（委員）2,370名と、

さらに各委員会からの代表者（会員）210名により構成され、3年を1期として選出されている。各委員会による討議を、委員会の代表である会員によりさらに問題の設定、討議、決定が行われる。これらの決定は、内閣への答申、勧告、会長談話、報告などの形式で広く国内外に向け発信されている。

2. 女性科学者の地位向上に関する学術会議の取り組み

男性・女性研究者の地位平等に関する学術会議の取り組みは、1960年代からの調査で開始され、日本学術会議・科学者の地位委員会が、婦人科学者の地位に関するシンポジウムを開催、啓蒙運動を起こしその成果に基づいて、学術会議は「婦人科学者の地位の改善についての要望」を政府に提出した。以後引き続きシンポジウム開催による啓蒙活動、婦人研究者の地位の改善に向けて政府への要望を提出してきた。この間、日本婦人科学者の会も1975年国際婦人年に広く社会に向けて声明を出した。更に1984年、学術会議会長に対して、婦人科学者に男女同等の権利と地位を保証されるよう要望書を提出した。

わが国政府は、学術会議からの要望に加えて、国内外での男女平等、機会均等の運動の高まりも促進要因となり、婦人問題企画推進会議を設置、法政上の婦人の地位向上が図られることとなった。1991年には育児休業法が設けられ、男女共同参画型社会の形成に向けて加速度的に変革が起こりつつある。

一方、学術会議における女性科学者の会員・委

第4回JAICOWSシンポジウム 開催のお知らせ

- 1999年12月18日(土)
 - 時間と場所は未定
 - テーマ（仮）『女性科学者の環境改善の推進特別委員会（女性特委）の活動経緯について』
- コメンテーター：直井 道子 東京学芸大学教授
馬場 房子 亜細亜大学教授
浅倉むつ子 東京都立大学教授
- 問い合わせ先：お茶の水女子大学
ジェンダー研究センター
原 ひろ子 TEL 03-5978-5843
FAX 03-5978-5845

員就任者数の経緯をみると、昭和24年（第1期）から同43年（第7期）までは0であった。昭和44年（第8期）に初めて1名の女性委員が選出され、以後徐々に多くなり、17期現在は委員数2,370名中111名（4.68%）となり、それぞれ積極的に活動している。更に今期の学術会議は重点課題の1つとして「女性科学者の環境改善の推進特別委員会」を新たに組織し、推進に向け全力を挙げている。

1995年日本学術会議の女性会員・委員がメンバーとなって「女性科学者の環境改善に関する懇談会」Japanese Association for the Improvement of Conditions of Women Scientists, JAICOWSを設立し、学術会議第2常置委員会と共催で「女性科学者の環境改善をめざして」第1回シンポジウムを開催したことを皮切りに、毎年シンポジウムを開き、女性科学者の職場での問題点を討議、改善に努力している。またこれについての報告書も発行し、社会にむけて関心を高める努力がなされつつある。

他方、第二次世界大戦後の男女共学制施行のメリットとして、有能な女性科学者が数多く輩出しつつある状況を見ると、理性の府である学術会議でも女性会員・委員の比率が今後高くなることは自然のことと確信する。

この機会に、先輩女性科学者各位の開拓者としてのご努力に心からの謝意と敬意を表したい。また、上述の経緯から将来の男女科学者の真の意味での協同参画に明るい希望を感じることを申し添える。

本原稿は平成10年12月20日開催の「日本女性科学者の会設立40周年記念講演会」における講演の要約である。

学術会議から近況お知らせ

昭和女子大学大学院 島田 淳子

◆JAICOWSの皆様お久しぶりです。

◆まずホットなニュースからお知らせします。去る3月17日(水)、日本学術会議主催により第6回アジア学術会議シンポジウムが開催されました。主題は「人口と環境～持続的発展に不可欠なアジアの役割～」です。内容は基調講演一つ、特別講演一つ、および二つのパネルディスカッション「人口と環境」でした。そして基調講演の演者は、我らの原ひろ子先生。タイトルは「環境、資源、人口および人権～日本女性としての見解」でした。先生は上記4つの重要な問題に関する国連の取り組みを紹介し、これらを個別的にでなく相互関係のもとに捉えること、および一般の人々の日常経

験を結集していくことの必要性を流暢な英語で堂々と説かれました。そして、有名な加賀の千代女の俳句「朝顔に釣瓶取られてもらい水」を使って自然との調和と近隣との友好を訴え、強いインパクトを与えました。先生のご活躍を皆さんと共に喜びたいと思います。

◆島田も、学術の動向編集長としてがんばっています。「表紙の目次に必ず女性名があること」の原則を引き続き守っています。ぜひご協力下さい。論壇または随筆まだ御執筆いただいてない方、いつ頃なら御執筆頂けるか島田までFax(03-3982-0752)下さい。

なお学術の動向に、オアシスという欄を新しく設けました。これはいわゆる埋め草ですが、ここに皆様の撮られた写真をのせ、少しでもやわらかい印象にしようというものです。ぜひ学術会議気付編集委員会まで写真をお送り下さい。

◆学術会議は今年設立50周年を迎えます。中央省庁等改革基本法によれば、学術会議は今後行政組織上は総務庁に置かれることになり、その職務等のあり方については総理府に今後設けられる総合科学技術会議において検討されることになっております。このような状況の中で、さる2月18日の連合部会に、吉川会長より「日本学術会議改革案」素案が提出されました。今後にむけて学術会議は自己改革が必要であるという認識によるもので、4月の総会で討議することになっています。改革に向けての様々な提案の中に以下があります。

「従来の会員選出方法によって選ばれる会員数を全体の2/3、すなわち140人とする（配分は別に述べる）。残りの70名は、選出された会員が自ら選ぶものとする。70人に相当する会員の種類は以下のとおり。

- (1) 女性科学者
- (2) 地域を代表する科学者
- (3) 領域を超えて優れた科学者
- (4) 学術団体を単なる活躍の場としない科学者
- (5) 外国人科学者

これに対するリアクションをお待ちしています。

女性科学者の環境改善の推進特別委員会(女性特委)の活動経緯について

お茶の水女子大学 原 ひろ子

第17期日本学術会議では、女性特委を設置し1997年10月24日に第1回会合を開き、委員長に尾本恵市 国際日本文化研究センター教授(第4部)、幹事に池内了 名古屋大学大学院教授(第4部)お

よび原ひろ子 お茶の水女子大学教授（第1部）が選出されました。その他の委員は下記の通りです。

成田十次郎 高知女子大学長・筑波大学名誉教授（第1部）、有賀貞 独協大学外国語学部教授（第2部）、東壽太郎 津田塾大学学芸学部教授（第2部）、鶴田満彦 中央大学商学部教授（第3部）、中島吾吾 国際基督教大学名誉教授（第3部）、岡村甫 東京大学大学院工学系研究科教授（第5部）、末松安晴 高知工科大学長・東京工業大学名誉教授（第5部）、崎山亮三 東京大学農学生命科学研究科教授（第6部）、富田正彦 宇都宮大学農学部教授（第6部）、黒川清 東海大学医学部医学部長（第7部）、鳥山貞宜 日本大学名誉教授（第7部）。

今期は合計18回の会合が開かれる予定で1999年2月19日に第9回目の会合が開催されています。

1. 今期3年間の女性特委の活動は以下の内容となっています。

- (1) まず女性科学者に関する資料をもとに海外との比較を含め現状を把握するため、ヒアリング等を行う方針が確認された。また、各委員からの分野ごとの資料も可能な限り持ち寄るよう努力することとした。
- (2) 日本学術会議第16期の第2常置委員会との関連の深かったJAICOWS (Japanese Association for

the Improvement of Conditions of Women Scientists: 女性科学研究者の環境改善に関する懇談会) と連携を保つことを確認した。

- (3) ヒアリングを数回行った上で、活動方針を絞り込むこととした。

2. JAICOWSメンバーからのヒアリング

- (1) 直井道子 東京学芸大学教授（第16期第1部社会学研連委員）に、平成9年12月18日、女性特委（第17期・第2回）において「女性科学者の現状—JAICOWSの活動の一つとしての平成8～9年度文部省科研費（基盤研究A）調査に到る経緯と結果の展望について」お話しを伺った。
- (2) 馬場房子 亜細亜大学教授（第17期第1部行動科学研連）に、平成10年2月13日、女性特委（第17期・第3回）において「女性科学者の研究活動を促進・阻害する諸要因について」お話しを伺った。
- (3) 浅倉むつ子 東京都立大学教授（第17期第2部社会学法研連）に、平成10年10月30日女性特委（第17期・第7回）において①女性研究者の「被差別」の経験について：間接性差別、インフォーマルな差別、ポジティブ・アクションの方向など、②都立大学におけるセクシュアル・

原ひろ子（お茶の水女子大学ジェンダー研究センター長）編

女性研究者のキャリア形成

研究環境調査のジェンダー分析から

B5判 640ページ 定価 28,350円（税込）のところ特価 25,000円（税込）

女性研究者がキャリアを培い、輝いて活動していくための指針

戦後50年を経た今日、4年制大学に学ぶ女性は3割、大学院に学ぶ女性は2割となったが、4年制大学の女性教員はまだ1割を占めるにすぎない。

本書は女性研究者をとりまく環境について、男女比較とライフコース分析を加えて考察しようとするものである。学問研究活動と女性研究者の環境との関係を重視しつつ、特に日本の学問全般におけるジェンダー要因の考察を試みる。さらに、セクシュアル・ハラスメント、非常勤講師問題にも着目した点が従来の研究とは異なる特色である。

5,000人を対象としたアンケートで2,042人の回答を得た。このデータに関する詳細な分析に基づいて学術研究分野における男女共同参画をめざすための提言をする。採用における男女平等、賃金・昇進・昇格における差別の是正、教育・研究にたずさわる人びとの女性への偏見の除去、など8項目の具体的な提言は意義深いものである。

◆お申し込みは「勁草書房」内刊行係へ◆

書名・冊数・お名前・送付先・電話番号を明記のうえ、下記へFAXでお申し込み下さい。

ご注文締切日 1999年4月末日まで

特価 25,000円（税込）

(株) 勁草書房 〒112-0004 東京都文京区後楽2-23-15

TEL 03-3814-6861 FAX 03-3814-6854

ハラスメントの実態調査について：調査の方法、男女間の意識の差、労働環境の問題、なされた提言など、の二つのテーマでお話しを伺った。引き続き質疑では、間接性差別の内容、ポジティブ・アクションの法的問題点、セクハラ問題とその対策などについて議論があった。

3. 「学術における男女共同参画の状況について」の国際比較

日本学術会議では、平成10年度学術研究総合調査として「学術における男女共同参画の状況について」の研究費が配分され、女性特委の委員が調査研究を担当することとなった。

(1) 調査目的

日本の学術研究活動において、女性研究者の研究環境の改善を推進する上で、諸外国の研究機関における男女共同参画の状況がどのようなものであるかを調査研究し、21世紀の学術のあり方の検討に資する。

(2) 調査対象

国外のアカデミー：98機関（48ヶ国）

(3) 調査項目は①女性研究者の現状②研究現場における女性研究者の研究環境③女性研究者の環境改善に関する各研究期間等での取組④女性研究者の件今日改善に貢献した賞、研究者リスト⑤その他。

(4) 調査方法

英文によるアンケート調査票を送付し、①調査票での回答、②他の研究機関の適切な研究者に調査票の回送、③関連の論文、出版物などの資料提供、を依頼した。

(5) 回収状況

調査の実施は次のスケジュールで行われ、①平成10年10月20日：調査票発送、②同年11月27日：督促状発送、③同年12月20日：書類の返送期限、1月末までに調査票、資料の返送があった。

平成11年3月5日、JAICOWS副会長・日本学術会議第16期、第17期会員の島田淳子とJAICOWS庶務・日本学術会議第17期会員の原ひろ子は連名で猪瀬博 学術審議会会長、井村裕夫 学術審議会学術研究体制特別委員会基本問題小委員会主査および鈴木明憲 学術審議会学術研究体制特別委員会研究基盤小委員会主査に要望書を提出しました。以下にその全文を掲載いたします。ぜひ皆様のご意見を伺いたくご連絡をお待ちしています。

FAX：03-5978-5845

要 望 書

平成11年3月5日

学術審議会

会長 猪瀬 博 殿

第16期・第17期日本学術会議会員

第6部・家政学研究連絡委員会委員長

(お茶の水女子大学大学院人間文化研究科教授)

島田淳子

第17期日本学術会議会員

第1部・文化人類学・民俗学研究連絡委員会委員長

(お茶の水女子大学ジェンダー研究センター長・教授)

原ひろ子

学術審議会の会長をはじめ委員の諸先生方におかれましては、かねてより学術研究体制の在り方に関し多大なるご努力を重ねておられていることに深い敬意を表明致したく存じます。

諸先生がたもご承知のとおり、男女共同参画社会の構築を目指す今日の日本において、大学・研究機関等における研究者の男女共同参画の推進は重要な課題の一つであります。

貴審議会におかれまして、以下の件に関し、積極的にご考慮願いたく、ここに要望いたします。

記

1. 大学・研究機関等における研究者の性別構成の是正に関する件

ア. 女性科学研究者のなかには、長い研究暦と多くの業績をもちながらも、常勤の職を得ることができないために、非常勤で研究を続けている者が数多くおります。女性研究者のキャリア形成過程におけるいくつかの障壁の中で、研究者として常勤の職に採用される際の性差別が最も大きな第1の障壁であります。すなわち、採用に際して男女の候補者の業績が同等である場合、男性研究者を第一候補者とし、女性研究者を第二候補者とする傾向が有ることが私共に報告されております。このことは国・公・私立大学（4年制）および短期大学の教官・教員の常勤職、非常勤職に関する女性比率統計からも明らかであると思われます（表1、表2、図1、図2参照）。

人事選考過程につき詳細な調査が可能であるか否かは、今後の情報公開の動向によるものといえましょう。このような調査を待たずとも、各大学・研究機関等において採用人事に際して、ポジティブ・アクション（事実上の男女格差解消策として様々な工夫を行うこ

と、たとえば、男女の候補者の業績が同等である場合、女性研究者を第一候補者とし、男性研究者を第二候補者とするなど、注参照）を取り入れるなどの工夫がなされることが望まれます。

イ. 女性研究者のキャリア形成過程における第2の障壁は、昇進人事にみられる男女格差であります。この点につきましてもポジティブ・アクションを取り入れるなどの工夫がなされることが望まれます。

2. 大学・研究機関等における共同研究プロジェクト、及び、特定の大学・研究機関等を越えて実施される共同プロジェクトの形成に際して男女共同参画を目指す件

ア. 大学・研究機関等における共同研究プロジェクト、及び、特定の大学・研究機関等を越えて実施される共同プロジェクトの形成に際して、上記のポジティブ・アクションを取り入れるなどの工夫がなされることが望まれます。

以上の件に関して、各大学、研究機関がポジティブ・アクションを取り入れやすい環境を形成するための何らかの行政的手段が取られることを強く要望いたします。

【注】

（浅倉むつ子、1997、「紹介・企業内の事実上の男女格差解消策－労働省のガイドラインについて」、『労働法律旬報』1407:37-40）（浅倉むつ子氏は第16、17期日本学術会議第2部社会法学的研究連絡委員会委員、東京都立大学法学部教授）

別添資料1

日本学術会議における近年の動向について

日本学術会議では、第15期第118回総会（平成6年5月26日）において「女性科学者の環境改善の緊急性についての提言（声明）」を行い、第16期には第二常置委員会においてこの件に関する検討を重ね、第17期には女性科学者の環境改善の推進特別委員会を設置致しました。第1部から第7部までの各部二名ずつの委員よりなる同委員会は、尾本恵市委員長を中心に平成9年10月24日に第1回会合を開き、国内の状況に関するヒアリングと外国のアカデミーに対する郵送質問紙調査を行ってきております。また、日本学術会議では第16期に女性会員が1名（会員総数210名）しか選出されなかった現実に鑑み、研究連絡委員会の構成に際して女性委員を含めることを推進しました。その結果、33名しかいなかった第15期の女性

研連委員は第16期には88名（研連委員総数2,370名）と2.67倍にもなりました。第17期に向けてもポジティブ・アクションは積極的に推進され、第17期においては105名の女性研連委員が選出されました。しかしながら日本学術会議の女性会員は第15期4名、第16期1名、第17期2名という推移を示しており、現在の会員選出方法のもとでは日本学術会議会員の男女共同参画は道遠いものと認識されております。そのため、日本学術会議では女性会員の絶対数を増やす方法を工夫するべく、目下、鋭意検討中であります。

上記のように、日本学術会議として工夫出来ることには一定の限界が想定されます。従いまして、学術審議会におかれましては、その独自のお立場から強力に大学・研究機関等における研究者の男女共同参画を推進していただきたくお願い申し上げます。 以上

別添資料2

女性科学者の環境改善にかんする懇談会（JAICOWS）の動向について

JAICOWS（Japanese Association for the Improvement of Conditions of Women Scientists）は、1994年12月19日の発起人会をふまえ、1995年1月5日に設立総会を開催しました。当初のJAICOWS会員80名（代表 一番ヶ瀬康子）は第15期日本学術会議女性会員および第16期日本学術会議女性会員ならびに女性研連委員有志によって構成されており、第1部から第7部までのすべての分野にまたがっておりました。第17期にはいりました現在、JAICOWS会員を第13期以降のすべての日本学術会議女性会員ならびに女性研連委員に呼びかけ、現在の会員数は約100名となっております。日本学術会議の関係者のみという限定つきではありますが、日本学術会議の学際的な組織を反映して、女性科学者があらゆる分野にまたがり、広範囲にネットワークを形成したのは、日本においても初めてであり、画期的なことと自負しております。

JAICOWSは、第15期日本学術会議の「女性科学者の環境改善の緊急性についての提言（声明）」の趣旨を受けて女性科学者の環境改善のより具体的な推進のため、女性科学者自身がその具体的方策について検討することを目的とし、下記のような事業を行ってまいりました。すなわち、

- ① 女性科学者の環境に関する実態調査
- ② 女性科学者の環境改善に関する討議と提言・要望
- ③ 女性科学者自身が行うべき実践課題の検討

④ その他本会の目的を達成するために必要な事業などがあります。

具体的には、以下のような活動が含まれます。

① 女性科学研究者の環境に関する実態調査

1995年1月、JAICOWSのありかたについてのアンケート調査を会員を対象に実施。

1995年5月、1月に実施したアンケート調査へ回答で、調査研究に参加する意志を表明した人々を中心に、調査研究部会を発足（世話人 浅倉むつ子、加藤春恵子、直井道子、馬場房子、原ひろ子）。

1995年11月、平成8年度文部省科学研究費補助金（基盤研究A）「科学研究者の環境にかんする調査研究—男女比較を中心に—」（研究代表者 原ひろ子、研究分担者24名、浅倉むつ子、池田裕恵、石井摩耶子、一番ヶ瀬康子、岩崎芳枝、大隅正子、大野涼、垣本由紀子、加藤春恵子、木野内清子、玄番央恵、小島操子、島田淳子、島村礼子、下村道子、田端光美、土器屋由紀子、鳥居淳子、直井道子、永井玲子、丹羽雅子、馬場房子、森島啓子）を申請（平成8～9年度継続申請）。

1996年5月17日、上記申請の内定（平成8年度820万円、平成9年度680万円、課題番号08301023）に伴い交付申請書を提出。

1997年2月～3月、アンケート「科学研究者の環境に関する調査」の発送・回収（対象者数：女性3,225名、男性1,775名のうち有効回答者数：女性1,353名、男性689名、回答率：女性41.95%、男性38.82%、全体40.84%）。

1997年3月～1998年2月、学会別調査「各学会における諸活動への女性研究者の参画状況の調査」（対象：45学会、日本学術会議第1部関連3学会、第2部関連2学会、第3、4、5部関連各1学会、第6部関連5学会、第7部関連2学会）。

1997年11月5日、平成10年度文部省科学研究費補助金「成果公開促進費」（研究代表者 原ひろ子）を申請。

1998年5月29日、上記申請の内定（平成10年度280万円、申請番号102071）にともない交付申請書提出。

1999年2月15日、原ひろ子編、『女性研究者のキャリア形成—研究環境調査のジェンダー分析から』（勁草書房、604頁）の刊行。

② 女性科学研究者の環境改善に関する討議と提言・要望

1996年2月15日、第16期日本学術会議第2常置委員会、中塚明委員長に対し、「非常勤研究者が科学研究費申請に応募できるようにする件、並び

に性差別に関する不服申立に関する対応—専門的な機関の設置について」の要望書を提出。

③ 女性科学研究者自身が行うべき実践課題の検討

1995年12月15日、シンポジウム「女性科学研究者の環境改善をめざして」（主催 日本学術会議第2常置委員会、共催 女性科学研究者の環境改善に関する懇談会、会場 日本学術会議講堂）の開催。

1996年12月14日、JAICOWS編『女性研究者の可能性をさぐる』（ドメス出版、177頁）の刊行。

1996年12月14日、名古屋シンポジウム「女性研究者とキャンパス・セクシュアル・ハラスメント」（主催 女性科学研究者の環境改善に関する懇談会および愛知女性研究者の会、会場 ウイルあいち（愛知県女性総合センター））の開催。

1997年12月13日、シンポジウム「女性研究者と非常勤問題」（主催 女性科学研究者の環境改善に関する懇談会、会場 日本女子大学80年館）の開催。

④ その他本会の目的を達成するために必要な事業

1995年9月15日、「JAICOWSニュースレター No.1」の発行（編集担当、大野涼）

1996年10月15日、「JAICOWSニュースレター No.2」の発行（編集担当、大野涼）

1997年11月15日、「JAICOWSニュースレター No.3」の発行（編集担当、大野涼）

■原のコメント■

これまでの9回にわたる会合は、出席率が比較的によく、建設的な意見が開陳されています。

土木工学の分野では、女子学生が学部に入ってくるようになったのがつい最近のことで、やっと大学院にちらほら進学しているとのこと。このような、分野別の状況を含めて議論がおこなわれており、14人の委員のなかの唯一の女性である私は、「気長に気長に」と自分に言い聞かせながらタノモシク感じているところです。

女性科学者の環境改善に関する懇談会 (JAICOWS) 第5回総会議事録

日時：1997年12月13日 11:30～13:00

場所：日本女子大学泉山館2階第3会議室

出席者：女性日本学術会議会員、元会員、日本学術会議研究連絡委員会女性委員 累計20名

開会の挨拶

一番ヶ瀬会長より、学術会議第17期の女性研究連絡委員が16期の88名から107名に増加したとの

報告、及び17期の女性研究連絡委員の名簿の入手が遅れたため、本日の総会では中間的な性質のものとならざるをえない旨の発言があった。

議長を一番ヶ瀬会長として、以下の議事に入った。

1. 報告事項

(1) 会計中間報告 大隅正子会計担当幹事より会計中間報告がされた。

(2) 活動中間報告 石井摩耶子庶務担当幹事より、本年3月31日の定例総会以後の、以下の活動報告がされた。

① 1997年4月2日 持ち回りの役員会

原・浅倉企画担当幹事より、12月のシンポジウムのために、非常勤講師の実態調査を行うこととし、1997年度の活動方針の中にそれを加えることが承認された。

② 1997年4月4日 文部省でのJAICOWSによる要請に関する説明

本年2月7日付で文部省他関係省庁に提出した「要請書－研究教育機関におけるセクシュアル・ハラスメントの解決及び防止について－」につき、文部省生涯学習局婦人教育課より問い合わせがあり、原、鳥居、石井の3名が出向き、説明するとともに、JAICOWS所有の資料を提供。

③ 1997年6月27日 第13回役員会

- ・非常勤講師の実態調査の経費20万円中10万円を行事費から支出することを決定。
- ・12月13日のシンポジウム「女性研究者と非常勤問題」についてのシンポジストを斎藤吉広、早川紀代及び直井道子の3氏と決定。
- ・ニュースレター第3号の内容を検討。

④ 1997年9月16日 第14回役員会

12月13日のシンポジウムおよび時期総会の準備作業。

⑤ 1997年11月15日 ニュースレター第3号発行

⑥ 1997年12月5日 第17期の女性研究連絡新委員にJAICOWSへの入会案内を発送。

⑦ 1997年12月13日 第15回役員会

⑧ 同日シンポジウム「女性研究者と非常勤問題」を日本女子大学において開催。

(3) その他

① 自己紹介 出席者全員が自己紹介。

② 次期総会：一番ヶ瀬会長より、次期総会を1998年3月31日(火)10時～12時に学術会議の会議室において開催する旨の報告があった。

2. 審議事項

(1) 役員交替の件

一番ヶ瀬会長より次の①および②の説明と提

案があり、いずれも異議なく承認された。

① 本日の総会では会長のみを選出し、来年3月の総会において、その他の役員を選出する。

② ①が認められた場合、現役員の任期は来年3月末までとし、本日選出の新会長をはじめとする新役員の任期は、会計年度に合わせて4月1日より3年間とする。

(2) 次期会長選出の件

一番ヶ瀬会長より、次期会長として、安川悦子名古屋市立大学教授を選出したい旨の提案があり、この提案が満場一致で採択された。

(3) 議事変更の件

本日の総会議事とされていた「1998年度活動計画の検討」および「1998年度予算案の検討」は、新役員が選出されてから行うことが承認された。

3. その他

(1) 寄稿依頼：学術会議の広報誌「学術の動向」編集委員会の島田委員長より、同誌の論壇または随筆欄に、是非寄稿をお願いしたい旨の依頼があった。

(2) 研究費による調査：原会員から、経過説明及び成果刊行費助成の申請を行った旨の報告があった。

(3) 「女性研究者と非常勤問題」：直井会員から、調査の経緯についての報告があった。

(4) シンポジストの変更：浅倉会員より、シンポジストの斎藤吉広氏が、村山知恵氏に変更になった旨の報告があった。

(5) 意見交換：今後のJAICOWSのあり方等について意見交換を行った。

女性科学研究者の環境改善に 関する懇談会 (JAICOWS) 第6回総会開催記録

日時：1998年3月31日(火) 10時～12時20分

場所：日本学術会議第1部会議室

出席者：女性日本学術会議会員、元会員、日本学術会議研究連絡委員会女性委員 累計19名

議題（議長：鳥居淳子）

1. 新旧会長の挨拶

一番ヶ瀬旧会長、安川新会長より挨拶があった。

2. 1997年度事業報告（石井摩耶子 庶務担当）
別紙資料に基づき報告があり、承認された。

3. 1997年度会計報告（大隅正子 会計担当）
別紙資料に基づき報告があり、承認された。

4. 新役員選出…旧会長より以下の様な次期役員案の提案があり、承認された。

会長：安川悦子（1997.12.13 臨時総会にて決定済）

副会長：鳥居淳子，島田淳子

庶務：原ひろ子，室伏きみ子

会計：大隅正子，田畑光美

企画：浅倉むつ子，直井道子，一番ヶ瀬康子（ニュースレター）大野涼

監事：宮本美沙子，袖井孝子

5. 1998年度事業計画（原ひろ子 庶務担当）…以下の事業計画案が承認された。

(1) シンポジウムの開催

1996，1997年度に行われた女性研究者の現状調査（基盤研究A，原ひろ子代表）に基づいて，現在成果刊行を準備中であるが，原稿が揃った段階でシンポジウムを開催する。

(2) 勉強会については適宜検討する。

(3) ニュースレター第4号の発行。

(4) 第17期日本学術会議特別委員会（女性科学者の環境改善の推進特別委員会）への協力。

第16期第2常設委員会中塚明委員長等の御尽力により，女性研究者に関する調査研究費が平成10年度に900万円付いた。外国における女性研究者の状況調査とヒアリングに使用する予定。原ひろ子同特別委員会幹事より，調査研究へのJAICOWSの協力要請が為された。

(5) 第15期に出された女性科学者の環境問題に関する声明の改訂について，3年間かけて検討を行う。

(6) 女性会員が選出されにくい学術会議会員選出

のシステムの問題に関する検討を第1部に働きかける。

6. 1998年度予算案（大隅正子 会計担当）別紙の通り承認された。

7. その他

(1) 会則改正案（別紙資料）が承認された。

(2) 島田淳子編集委員長より「学術の動向」への寄稿依頼があった。

以上

第7回JAICOWS総会のお知らせ

日時 1999年4月11日(日) 14:00～16:00

場所 お茶の水女子大学
附属図書館1階 第2会議室
(東京都文京区大塚2-1-1)

TEL: 03-5978-5843

FAX: 03-5978-5845

地下鉄丸の内線茗荷谷駅下車，徒歩7分，東門
地下鉄有楽町線護国寺駅下車，徒歩9分，南門
(当日南門は開きません)



報告事項 (1) 1998年度活動報告

(2) 1998年度会計報告

(3) その他

協議事項 (1) 1999年度活動計画の検討

(2) 1999年度予算案の検討

(3) その他

1998年度 女性科学研究者の環境改善に関する懇談会予算

〔収入〕		〔支出〕	
繰越金	192,266	通信費	80,000
会費	480,000	機関誌・発行・発送費	100,000
	(8,000×60)	行事費(シンポジウム他)	130,000
利子	500	調査準備費	80,000
		会議費(含交通費)	80,000
		事務局費	180,000
		予備費	22,766
	672,766		672,766

1998年度 女性科学研究者の環境改善に関する懇談会会計中間報告('99. 3. 11現在)

〔収入〕		〔支出〕(仮払い分を含む)	
繰越金	192,266	事務局費	177,662
会費	216,000	通信費	42,190
(27人分)	(8,000×27)	会議費(含交通費)	3,540
利子	534		
寄付	24,000		
	432,800		223,392

女性科学研究者の環境改善に関する懇談会

Japanese Association for the Improvement of Condition of Women Scientists

【連絡先】原 ひろ子

〒112-0012 東京都文京区大塚2-1-1

お茶の水女子大学 ジェンダー研究センター

TEL:03-5978-5843 FAX:03-5978-5845